立川市民オペラの会　サポーター通信　No. 0018
2012年10月1発行

アミューオペラ 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」＆フランスオペラの饗宴

2012年12月15日（土）
13：15開場　14：00開演
立川市市民会館（アミューたちかわ）大ホールにて開催

10月を迎え、ようやく秋らしい爽やかな季節になりました。サポーターの皆様は如何お過ごしでしょうか。
第2回目を迎えるアミューオペラも**9月14日(金)チケット発売開始**以来順調に売り上げを伸ばしています。
今回は「アミューオペラ」に加え、実力者4名のソリストが素晴らしい歌声を披露する「フランスオペラの饗宴」の2本立てです。歌劇とコンサート、２つの感動を心ゆくまで味わって下さい。チケットのお買い求めもお早めに！

オペラ合唱団より

12月15日の公演目指して、カヴァレリア・ルスティカーナの練習に励んでいます。現在は合唱部分を全曲通して、暗譜で歌っています。9月から古谷先生の指導も始まりました。
日頃の稽古で、「どんな指揮にも即座に合わせられるように」と指導を受けているお蔭で、初回から古谷先生の要求に応えられたと思います。10月は演出家十川先生の立ち稽古が始まり、立川市合唱祭への参加もあります。合唱団にとって、このオペラは2度目になります。前回よりさらに質の高い、合唱団員の情熱が伝わる舞台を目指して努力したいと思います。

知っトク　連載「知っていると面白くなる」

今回は「カヴァレリア・ルスティカーナ」の作品成立についてです。1888年、25歳の音楽教師マスカーニは、一幕物オペラコンクールに応募することにします。それには多額の賞金と音楽家としての成功という野心もあったのでしょう。しかし募集締切の1889年5月31日までは11ヶ月、募集要項に適する手持ちの作品が無く、題材の選定からというゼロからのスタートを切らざるを得ませんでした。しかも若い彼にはお金もありません。最初の作業である題材の選定、そして台本執筆を幼馴染の友人に頼むしかありませんでした。題材を決め台本の出来た部分から作曲するという作業が始まったのは締切5ヶ月前の1889年1月でした。その後台本は同年3月完成、全曲の完成は5月中旬、お金をかけず綱渡りの作曲でしたがどうにか間に合いました。またコンクールにおいてもお金の無い彼は、自分でピアノを弾き、自分で歌いプレゼンテーションをするしかありませんでした。ここまでは厳しい状況が続きます。

ところが発表が続くうち次第に好意的に受け取られるようになり、発表の際、手伝って歌ってくれる審査員も現れるようになります。更にはライバルの作曲家からも賛辞を受け、結果は全会一致の最優秀作品となりました。彼はこの作品により世界的な名声を手に入れ、その後作曲家・指揮者・教育者の各方面で活躍することになりましたが、その後この作品を超えるものは作り出せませんでした。実際現在では「マスカーニ」＝「カヴァレリア・ルスティカーナの作曲者」という認識しかもたれていないのではないでしょうか。しかし題材の決定から完成までの11ヶ月、作曲期間のわずか4ヶ月余りの短い期間は、金銭的な余裕も無い若い音楽教師が、一番輝いた時であり、歴史に名を残すための時間であったのかもしれません。　　H・S

【お問い合わせ先】立川市民オペラの会事務局　Tel ： 042(526)1312　Fax：042(525)6581
（公益財団法人立川市地域文化振興財団）　E-mail ： opera@tachikawa-chiikibunka.or.jp